

たより



教職員研修講座(中部大学現代教育学部准教授・模擬授業)

深谷圭助先生の付箋紙を使った「辞書引き学習」

「ぼく、ドラえもんです。」と深谷先生。「えーっ!」と子ども達。一年生の子ども達が一瞬で先生に引き込まれていきます。教室は、子ども達の笑顔でいっぱいです。



クイズが始まりました。「20個」の読み方が問題。参観者の多くは「にじっこ」、子ども達の多くは「にじゅっこ」、どちらが正しいのでしょうか。先生が問いかけると、子ども達は言葉そのものに興味を持ち始めます。「お父さんやお母さんが子どものころは、にじっこ。今は、どちらもです。」と説明すると、子ども達も参観者達も納得の表情です。

いよいよ、付箋紙を使った辞書引き学習が始まりました。進修小学校の先輩が使った辞書がスクリーンに映し出されると、子ども達の目が一点に集まります。あまりにもたくさんの付箋の量にびっくり。付箋をどこにどうやって貼るのかは一目瞭然。「付箋に知っている言葉を書いて、線に合わせて貼ってください。」という先生の説明も、すうっと理解していきます。映像の力もあるのですが、やはり先生の磨かれた言葉がけの力を感じます。

「ここにあるのは・・・コンピュータ、こんぶ、コンビニ。コンビニ知っている人!」と先生。「はーい!」と元気いっぱいの子も達。身近な言葉から入っていく手法はさすがです。「あ」の所から付箋を貼り出した子ども達。次々に「あじさい!」「アクセサリー!」「あおむし!」と言葉が飛び交います。「あきらめるってあるけど、あきらめちゃいけないよ。」「あたり。あたりはずれの相棒かな。宝くじはあたらないなあ。」と、あいつく言葉から世界を広げていきます。言葉の意味や活用の仕方をさりげなく伝えていくのです。

言葉を見つけては、黙々と付箋を貼る子ども達。先生が、「あかちゃける」や「うみねこ」などの言葉を取りあげて、コメントをしていきます。言葉の面白さを感じてほしいという先生の意図が随所に見られます。子ども達の興味・関心をさらに広げ、主体的な学びを生み出していくのは、教師の技なのだと感じました。



「そろそろ時間ですが、終わってもいいですか?」と先生が声をかけると、「えーっ!」「もっとやりたい!」と子ども達の声。知りたい、わかりたい、もっとやりたい・・・自分で学び始める子ども達の姿は、とてもたのもしく見えました。参観に来ていた保護者の方の一人が、「私もやってみようかな。やり方は子どもに教えてもらえばいいしね。」とやる気満々。夕方の食卓では、きっと「辞書引き学習」の話が弾んだことでしょう。



～懇談会から学んだこと～

いくつかのポイントをまとめてみました。

子どもの学びは、授業で完結してはいけない

子どもが本来持っている「学ぶ意欲」を引き出し、自分で学ぶ習慣を楽しく身につけるのが辞書引き学習。授業中に行うのではなく、子どもが自分で暇を見つけてする主体的な学習である。「もっと知りたい」という子どもの探究心が、他の図鑑や百科事典、地図帳などへ興味の広がりを見せる。事典をさりげなく用意して、子どもをサポートするのが大人の役割である。

階段をのぼらせる学習

もうちょっとやりたいと思うところでやめさせるというさじかげんが意欲をさらに引き出す。言葉を見つけて付箋を貼っているうちに、知っている言葉をさがすようになる。そして、次第に調べたい言葉が浮かんでくるようになる。いきなり「意味調べ」はレベルが高い。階段をのぼらせることが大切である。



達成感や自尊感情を大切に

辞書の正体を知るためには、とにかく触ることが大切である。付箋はよび水。初めは、「貼るのが楽しい」と言う。1000枚貼ると違って来る。付箋が増えていくうちに、「貼るのが楽しい さがすことが楽しい わかることが楽しい」と変化していく。辞書が膨らむと、したことが目に見えるため、達成感が生まれる。また、暇をみつけてコツコツと勉強する自分の姿に自信を持つようになり、自尊感情が生まれる。達成感や自尊感情は、大切である。

先生のお話は、他にもたくさんありました。語彙力が活用力につながること、当たり前のことを疑ってみる大切さ、漢字の意味やおどり文字、読み方が時代とともに変化すること、学習指導要領に書かれていること等、充実した時間になりました。



アンケートより (一部抜粋)

- ・国語力の向上から生まれたものではなく、「生きる力」の育成から生まれたものであったことを知って、大きな柱からこの学習法が生まれたことに感動した。具体的に、大切なことや方法がわかり、よい研修となりました。
- ・話題の「辞書引き」ってどんなのかなと思い参加させてもらいました。子ども達との楽しいやり取りからスタートし、子ども達が辞書引きに夢中になって取り組む様子を興味深く見せてもらいました。「じっこ」を「じゅっこ」と言ってもいいことを初めて知りました。また、辞書の進化にも驚きました。いつかクラスの子と取り組んでみたいと思います。
- ・ものすごい量の付箋に驚きました。一年生の子ども達がチャイムが鳴ってもやりたそうなのが印象的でした。ありがとうございました。そして、どうしたら子ども達が興味を持って取り組めるかということも教えていただき、大変ありがたかったです。
- ・明日からでも「やりたい!!」「早くやりたい!!」と思えるような興味深いものでした。ということは・・・子ども達も興味をもってするだろうなと感じました。ありがとうございました。
- ・一年生の子ども達が自然と辞書引き学習に入っていけるような導入の仕方は素晴らしいと思いました。黙々と言葉を探す姿、もっとやりたいと言う姿に、辞書引き学習の力を感じました。